

世紀末なの？

「最近は世紀末とか千年紀末っていうんだけど、それって西暦でのことで西暦と関係なく生きる人や動物には関係ないよね」

「ま、世界人口の 3 割がキリスト教系だというからそうじゃなかったら関係ないかも」

「だったら世界が滅んだらキリスト教じゃない人にとってはいい迷惑だよ」

「ていうか滅びないでしょうね、それに根本的にまだ西暦 1999 年は世紀や千年紀の最後の年じゃない、もし紀元前 10 年に生まれたなら紀元 10 年の誕生日を迎える直前の日は 18 歳だし」

「そういうことを言うし」

「なに？」

「も少しおもしろい話題がいいよ、別に 20 世紀から 21 世紀にいつ変わるかじゃなくて、2000 になるんだしなにかきつこう、すごいことが起きないのかなあ？」

「だいたい、人が 100 年生きてたら一度は世紀末に遭遇するんだし、千年紀末だって 10 回に 1 度の確率、当たり 1 割っていうのも考えてみればなかなかいい勝負」

「でも、これは一生に一度なんだし」

「だったら大過なく過ごせるほうがいいよね」

「え、そういうことじゃなく、なんていうか歴史のひと幕を繰る瞬間に立ち会えるっていうことをもっと思う存分体験したいから、なにかないの？もう 7 月も過ぎたしカッシーニも土星に向けてのスイングバイに成功して加速して行ってしまったし」

「まあ確かに、キリスト教的には西暦 2000 年から至福千年紀が始まると信じる人も多いし、バチカンが 1999 年 12 月 24 日から 2001 年 1 月 6 日までを大聖年とするという法王の勅書も発表している。ある研究者によると 2000 年への節目と 2001 年への節目のどちらを重視するかで、前者重視は常識的感覚な人、後者重視は論理的な人だとかいうし…あ、つまり終末論に踊らされたいわけだ。だったらノストラダムスなぞよりも社会的信用の十分に高いバチカンが握っている世紀末予言、じゃなく、んー世紀末に関する予言、があるよ」

「はい、予言と預言はなにが違うの？」

「見てのとおり、予（あらかじめ）め言うのと、言を預ける。全然違う」

「でも、世紀末のことを言ってるんだし、一緒っばい、で、なにがどうなるの？」

「…んん、ポルトガルにファティマというところがある、ここに今世紀初頭にマリアが降臨したということがバチカンの奇跡認定委員会によって認定されている」

「奇跡認定委員会？」

「科学的に奇跡として報告された事象を検証し、どうしても奇跡としか思えない事柄のみ奇跡として認定するところ、だから認定までには何年もかかる。故に信憑性も高いんだけど」

「ふーん、でマリアが降臨してなにが起こったの？ あ、預言？」

「そ、幾つかあったらしいんだけど、そのうちの第 3 の預言と呼ばれるものは余りに恐ろしい内容だったためにバチカンが封印してしまったというもの。ちなみに第 1 は第 1 次世界大戦の終結、第 2 は第 2 次世界大戦の勃発」

「じゃ、第 3 次世界大戦絡みのことなのかな、第 3 預言は？」

「どうかなあ？ 漏れ聞くところによると、世紀末に悪魔が全てを支配してしまう、というものらしいけど」

「どっから漏れ聞くわけ？ 怪しすぎるよね」

「冷戦で世界に緊張が高まった折り、第 3 預言の内容を和らげた文言にして幾つかの国に宛てバチカンが伝え、世界大戦を避けるよう説得したというから、それが漏れ出ているのかもしれないけれども、ま、信用ならないお話です」

「だったら言うことないのに」

「でも、バチカンは確かにファティマの黙視録とも呼ばれる第 3 預言を隠蔽している。ただ、それもそろそろいいだろうってことで世紀末前後に第 3 預言を開示するんじゃないのかとのもっぱらのお話です」

「またお話？ 第 3 預言が隠されているのまでは本当でも、そっから全部あやふやだね」

「でも、もし開示されたらと思うと非常に気分がいい。どうにもこの手の話は胡散臭いものばかりだけれども、バチカンという世界に名だたる団体が正式に発表するんだから、それはある意味本当、と取ってもいいと思うから期待してその日を待とう」

「どう期待するの？ やっぱり世界の破滅？」

「あい変わらずだなあ、終末論者みたいに。だいたい世紀末までは 1 年あまりあるから、また来年の今ごろになってやっと世紀末的ないろいろが始まる予定なんだから慌てて破滅する必要はない」

「なあんだ、破滅しないのか」

「そう、それよりも交通事故に気を付けて自分だけで破滅しないように…」

「むう、ああ！ そんなことより落ちがないよ！ どうしよう！？」

「取り敢えず、落ちなかったからえーやん」

「あうう、それが落ち」

おしまい

Maki Rouel 19990929